

# レジリエントな街づくり：アーバンファーマーミング

## 第二回：企業の取り組み

フランスではここ数年、都市部でのアーバンファーマーミングが注目を集めています。

首都であるパリでは、環境問題や食糧調達におけるサプライチェーンの短縮といった問題の解決に、自治体、企業、一般市民が一体となって取り組むシステムを構築しようとしています。

アーバンファーマーミングシリーズ第二回は、企業の取り組みをご紹介します。



パリ展示場屋上建設予定図

(Photo : Valode et Pistre architectes Atlave, <https://www.paris.fr>)

現在フランスには 100 社を超えるアーバンファーマーミング関連の会社があります。各農場の規模は様々で、数百平米から数千平米の広さをもつ農場があります。

農園の形態も様々で、パリ市では、ホテル、学校、会社、プール、ショッピングモールなどの建物の屋上を利用した農園経営が増えてきています。

そのほかにも、利用されなくなった地下駐車場を再利用したきのこ類の栽培、廃線の駅構内を農園やカフェに改築した農園などが誕生しています。去年の秋には、バステューユのオペラ座の屋上も農園と様変わりしました。

また来春には、屋上農園では世界最大規模となる 14000 平米の広さの農園がパリ市内に建設予定です。ここでは、20 人のスタッフが年間 1 トンの果物や野菜を栽培する予定です。建設予定地は、パリ南西部 15 区にあるフランス最大の展示場で、モーターショーや、テクノロジーの見本市などが開かれる巨大な施設の屋上です。菜園は市民にも貸し出されるほか、菜園見学、企業のチームビルディング研修などにも活用できるようなサービスを提供予定です。また立地条件を活かして、パノラミックな景色を眺めながら、採りたての野菜や果物を堪能できるレストランとバーも併設されます。

### イノベティブな農業経営

アーバンファーマーミングには、ハイテック農場とローテック農場に分けられます。

ハイテック農場では、垂直農法や人口の光を使用し、ICT を駆使して培地を正確に管理することで水耕栽培、空中栽培を行います。

フランスのスタートアップ会社 Agricool は、使用されず廃棄されていた出荷用のコンテナに着目しました。コンテナは簡単に移動可能なため、消費者の近くでの栽培が可能となり、輸送時のエネ

ルギー消費を削減できます。ちなみに欧州で消費されるイチゴが食卓に並ぶまでに、平均で 1500 キロの輸送距離が必要だといわれています<sup>1</sup>。

Agricool のコンテナ栽培は、通常栽培に比べて水の量を最大 9 割削減できる上、コンテナ内のエネルギーは再利用されます。農薬は使わず、大気汚染防止システムにより、コンテナ内の空気は洗浄されています。



Agricool 創業者がインスピレーションをうけた  
コンテナ (Photo : <https://agricool.co/>)



Agricool のコンテナ内のイチゴ栽培  
(Photo : <https://agricool.co/>)

ローテック農園は、野外のオープンスペースで、シンプルなシェルターのもと土を用いたプランターなどで栽培されます。

この夏、宮殿で有名なベルサイユ地区のショッピングモールの屋上に、ベルギーのスタートアップ会社 Peas and Love の経営するアーバンファームがオープンしました。この会社は、狭い敷地内でも栽培が可能な垂直農法を採用しており、ハイテック、ローテックの中間に位置する農園です。ここでは、2 平米サイズの 200 個のコンテナには水道管が設置されており、毎日スタッフが状況を見ながら手動で管理しています。

ちなみに、この農園を利用するには、入会時に 100 ユーロ、月額 38 ユーロを支払いコンテナの一年間の賃貸契約をします。収穫の少ない冬場でも月額は維持費として支払います。

農園の栽培は利用者ではなく、専任のスタッフにより行われます。年間で 60 種類以上のサラダ、果物、野菜、食用花、ハーブが収穫可能です。ただし、栽培される植物の種類は決まっており、各利用者がコンテナ毎にカスタマイズすることはできません。



ベルサイユ地区ショッピングモールの  
屋上農園 (Photo : M.F.)

<sup>1</sup> Consoglobe (2019), *Agricool*, [https://www.consoglobe.com/agricool-des-fraises-locales-0-pesticides-100-gout-reportage-video-cg?utm\\_medium=social&utm\\_source=twitter](https://www.consoglobe.com/agricool-des-fraises-locales-0-pesticides-100-gout-reportage-video-cg?utm_medium=social&utm_source=twitter)

アーバンファーマーミングは、農園経営だけでなく、その他様々な分野と関連しています。例えば、家庭やレストランから出る有機廃棄物を扱う堆肥製造業者や、有機苗や種子を扱うサプライヤーなどです。また、農業器具の設置やメンテナンス業、ガーデニングの手法に関する研修や教育などの業者も関連しています。

フランス国立農業研究所のサンジェス氏は、これらのアーバンファーマーミング関連の会社の創立者は多くが農業経験者ではなく、大学や大学院で経営学を専攻した人達であることに着目しています<sup>2</sup>。また、アーバンファーマーミングには新しいビジネスモデルが必要であるとも指摘します。同研究所の調査によると、アーバンファーマーミング関連会社のうち、食糧の栽培、販売をしている会社は64%、設備関連が20%、16%が市場でのサービス提供者となっています。ただ、食糧の生産だけではビジネスモデルとして成り立たないため、全体の76%の会社は、栽培、販売、サービスなど複数のビジネスを同時に手掛けています<sup>3</sup>。

サンジェス氏は、アーバンファーマーミング事業の成功の秘訣として、研修やリサーチ分野での他社とのパートナーシップを上げています。同様に、土地や顧客のネットワーク拡大のために、行政や都市デベロッパーとの連帯の重要性も指摘しています。

次回のアーバンファーマーミングシリーズ最終回では、行政の取り組みについてパリ市の例をご紹介します。

Nagata Global Partners  
Associate Consultant  
Mika FLATRES

---

<sup>2</sup>The Conversation (2018), *Les projets d'agriculture urbaine peuvent-ils être viables ?*, <http://theconversation.com/les-projets-dagriculture-urbaine-peuvent-ils-etre-viables-107385>

<sup>3</sup> 3と同じ